

現代日本論基礎講読「研究法入門」

第6講 プロジェクトとしての研究

田中重人 (東北大学文学部准教授)

[テーマ] アイディアについての意見交換; 研究を完成させるのに必要なこと

1 「精読」課題について

- 書誌情報をちゃんと書くこと
- 「キー・センテンス」の選びかた
- 用語の意味、類義語、対義語など

2 意見の交換

【課題1】各自が作ってきたマインドマップを見ながら、グループで意見交換する

- 5分程度で説明、そのあと意見交換
- 思いついたことはとりあえず口に出してみる
- 今の段階では、最終的なレポートの形や、厳密な理論展開や根拠については保留しておいてよい

3 文献・資料の探しかた

- 書店／図書館
- CiNii Books: <http://ci.nii.ac.jp/books/>
- CiNii Article: <http://ci.nii.ac.jp>
- Google Scholar: <http://scholar.google.co.jp>
- そのほか、各専門領域のデータベースやリンク集など:
 - <http://www.sal.tohoku.ac.jp/~gothit/zinbun.html>
 - <http://www.sal.tohoku.ac.jp/~gothit/kanren.html>
 - <http://www.sal.tohoku.ac.jp/nik/student/litsurv.html>
- 芋づる式
- 人に聞く

4 論文講読と口頭発表

論文と口頭発表に触れておくことは、学術的な表現方法を習得するという観点からも重要である。必ずしも自分の研究対象でなくとも、様々な分野の論文を積極的に読み、論文の構造や文体や語彙に慣れておくこと。口頭発表については、大学内外での学会・研究会・ワークショップなどに参加してみるとよい：

- 東北大学のニュース: <http://www.tohoku.ac.jp>
- 文学部のニュース: <http://www.sal.tohoku.ac.jp/index-j.html>
- 田中によるブックマーク: <http://b.hatena.ne.jp/remcat/東北大学>
- 文学部関連フィード集: <http://daichkr.hatelabo.jp/antenna/960679194077064760>
- はぎのすけ (図書館 Twitter アカウント): http://twitter.com/hagi_no_suke

5 プロジェクトとしての研究

Project: 有期性と独自性という2つの特徴を持つ業務。「有期性」とは、明確な始まりと明確な終わりがあること、「独自性」とは、これまでにない新しい何かを創出する新規性があること。(花岡編, 2012, pp. 1-2)

通常は、企業の中でチームを組んでおこなわれる一連の仕事を指すことが多い。この場合は、人員や予算の制約がプロジェクトの管理の上で重要となる。

学生がひとりでおこなう研究の場合は、このような制約はあまり重要ではない。それよりも、自分の使える時間・体力・知識を正確に把握して、余裕をもって計画を立てる(進行状況を見て適宜修正する)ことが必要になる。

【課題2】この授業の結果報告(1/8, 15)に向けてやらなければならないこととその時期的な見通しについて整理せよ。ガント・チャート(Gantt chart)の形で書くことを推奨するが、ほかの方法でもよい。

6 宿題

自分がレポートで取り上げる内容について、配布資料(大島ほか, 2005, p. 37)を参考にして、「問いと答え」の表を作成。次回授業時に3部持ってくる(うち1部を授業後に提出)。

7 今後の予定

- 12/18は通常授業
- 12/25は休講: その代わりに個人面談(レポートについて): 12/14-16, 18, 21, 22, 24
- レポート内容について発表: 1/8, 15 授業時
- 口頭試問(1/18以降)

文献

日経BP社(2010)『実践ノート&書類術』(日経ビジネス Associe スキルアップシリーズ)日経BP社。

大島弥生・池田玲子・大場理恵子・加納なおみ・高橋淑郎・岩田夏穂(2005)『ピアで学ぶ大学生の日本語表現: プロセス重視のレポート作成』ひつじ書房。

花岡伸也(編)(2012)『プロジェクトマネジメント入門』(シリーズ新しい工学2)朝倉書店。